特別寄稿　特集「COVID-19」

新型コロナウイルス感染症対策として取り組んできたこと

北堀　裕子　　山田ちな美

静岡赤十字病院　感染管理室

2020年を迎えて間もなく，武漢市で原因不明の肺炎患者が複数認められた．この時点では，国外で発生した限局的な発生と捉えていた．しかし，中国での感染は拡大し，各国で発生が散見されるようになり，ついには国内でも患者が認められた．徐々に近づいてくる見えないウイルスに危機感を抱き，疑い患者が来院した際の対応や感染対策を検討し始めた．しかし，この新型コロナウイルスについて不明なことが多く，何が正しい対策なのか常に手探り状態であった．

その後も徐々に国内での感染者が増えてきたことより，当院で今後患者を受け入れることを想定し，発熱病棟を開設した．入院患者の移動，ゾーニングのための改修作業，物品の配置，防護具の着脱訓練等，当該部署のスタッフはもちろん様々な部門の方々の協力を得て，会議での決定からわずか1日足らずで開設することができた．その後も各部門でマニュアル作成に取り組んでいただき，感染対策が徹底されるようになった．そして，検査体制も充実し，院内でのPCR検査が可能になった．このことより，3月に生じた職員陽性による接触者への検査が速やかにでき，検査部の協力により，患者，職員に対して幅広く検査を行うことができるようになった．

そのようななか，4月に救急外来を受診した患者が陽性と判明した．来院時から入院後も感染対策が確実にされていたことで，院内感染はもちろん，患者，職員ともに濃厚接触者を1人も発生させることがなかった．その後も陽性者の受け入れを行ってきたが，発熱病棟の対策の徹底により問題は生じていない．院内の体制整備は順調にされてきていたが，感染拡大が続くなか，感染対策チームで様々な対策を検討してことに限界を感じ，感染対策本部を立ち上げた．医療スタッフ以外にも様々な部門の代表で構成され，各々の役割のもと連日情報共有を図っている．現在（2020年10月）も毎週開催され，問題の共有や対策の検討を行っている．

感染拡大状況に応じ，受け入れ病床の調整や患者対応，職員の行動制限等を繰り返し見直してきた．今回，このような新たな感染症問題と向き合い，先が見えない不安感や様々な重圧もあったが，周囲の協力体制により，乗り越えてくることができた．

今後，長期化していくなかで，基本的な感染対策の徹底を呼びかけ，患者が安全に医療を受けられ，職員が安心して働ける環境作りに努めていきたい．

連絡先：北堀裕子；静岡赤十字病院　感染管理室
〒420-0853　静岡市葵区追手町8-2　TEL(054)254-4311